

令和5年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 18	学校名	県立伊奈特別支援学校										学校長名	奥岡 智博				
教頭名	茅根 正史			教頭名	冬木 芳明			教頭名	高野 康子			事務（室）長名		石引 浩				
教職員数	教諭	115	養護教諭	2	常勤講師	34	非常勤講師	5	実習助手	2	学校栄養職員等	1	事務職員	3	技術職員等	13	計	180
児童生徒数	学部	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計		合計 クラス数		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
	小学部	13	5	19	7	27	6	21	7	11	7	24	7	115	39	37		
	中学部	25	10	14	8	20	11							59	29	19		
	高等部	23	15	26	11	20	11							69	37	19		
	計													243	105	75		

2 目指す学校像

- ◆安全・安心であたたかな笑顔あふれる学校
- ◆一人一人のよさや可能性を大切にする学校
- ◆主体性、協働性を育み、挑戦する心を育てる学校
- ◆家庭・地域社会と連携し、信頼される学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学校経営	- 令和4年度は、全校児童生徒数（335名）に占める30日以上欠席者は、新型コロナウイルス感染症に関連する出席停止を含めると全体の12.8%（43名）であった。不登校児童生徒への支援について、個々に対する背景や理由を把握しその児童生徒に合った支援策を講じている。 - いじめの早期発見のために、児童生徒や保護者への定期的なアンケート調査を実施し、実施後速やかに担任との面談や教職員間の情報共有など、早期発見、早期対応に努めている。 - 災害発生時の初動時において速やかに施設の被害状況や児童生徒、職員の安全を把握し、避難できるように日頃からの防災教育の充実や情報伝達体制の更新をしている。 - 児童生徒の通学指導について、自宅からスクールバス乗降地点まで、交通ルールを守り安全に通学できるように通学方法等を把握し、家庭と連絡を密にしている。自力通学生の通学指導については、定期的及び必要時に実施している。 - ペーパーレス化や業務データのクラウド化、デジタルツールの導入により、情報共有や共同編集機能が進み、業務の見える化やスリム化を図ることができた。学校現場における働き方改革については考えられる対策は全て実行に移しつつ、今年度は、勤務時間（量）から成果（質）へと働き方の転換を図っていく。 - 服務規律の確保について、管理職によるトップダウン型の研修や、各部が主体となって行うボトムアップ型研修を併用しながら職員研修の充実を図り、常にコンプライアンス意識をもって行動する教職員を目指している。令和5年度は「教職員一人一人が、当事者意識をもち意識改革に取り組む」をテーマに研修を進めていく。 - 保護者や地域社会との連携について、新型コロナウイルス感染症対策の影響で行事の縮小や自粛が続くなど、感染症対策を講じながら家庭や地域との連携協力を進めていく新しい形態を模索している。	- 児童生徒が不登校になってからの事後的な取組に先立ち、児童生徒が不登校にならない、魅力ある学校づくりを目指す。不登校児童生徒に対しては、様々な専門スタッフと連携協力し、組織的な支援体制を整えていく。 - インターネットを通じての友人間のトラブルが増加傾向にある。インターネット環境を経由した児童生徒間のトラブルに対して学校が速やかに事態を把握することが課題である。 - 本校は、水害時浸水想定地域に位置するため様々な災害、危機に備えた施設設備や危機管理体制のさらなる充実強化が求められる。 - 自力通学者やスクールバス利用者の登下校時のさらなる安全確保の徹底を図る。 - 職員間のコミュニケーション不足が課題である。特に、転入や新規採用職員は、慣れない環境でストレスを抱える傾向があるため、1on1ミーティング等の対話を通じて職員自身のマネジメント能力の向上やワーク・エンゲージメントへの意識の向上、組織力の向上を図る必要がある。 - 服務規律の確保については、様々なコンプライアンス違反が発生する背景要因を検証するなど、今後も定期的にコンプライアンス研修を行い、校内のコンプライアンスの確保及び推進のための体制を整備する必要がある。 - 令和7年度開始予定の学校運営協議会制度へ向け、地域と一体となった特色ある学校づくりを進めていくことが急務である。

学習指導	・研究テーマ「児童生徒の学びの質を高める授業実践」をもとに、令和３年度より３カ年計画で校内研究テーマを設定している。１年次は、「教科の見方・考え方を働かせた授業づくり」をテーマに、自立活動の視点を取り入れた各教科の授業づくりについて研修を行った。２年次は「深い学びと学習評価」をテーマに、外部講師より指導助言を頂くことで、より深い学びにつなげる授業改善のポイントや内容のまとまりごとの学習評価の在り方について共通理解することができた。３年次は、「３観点での目標設定及び学習評価の充実」をテーマに外部講師を招聘し、３観点での目標設定及び評価のポイントについて研修を行う予定である。 ・キャリア教育について、自然体験活動や職場見学、社会人講話などの機会を確保し、キャリア教育に関する実践的で体験的な活動の充実を図っている。	・各教科及び合わせた指導における単元計画の作成、目標及び評価規準の設定の仕方など、具体的な指導案の様式を使用しながら検討し、３観点における目標設定及び学習評価について理解を深めたい。 ・統合型校務支援システムの運用と併せて、個別の指導計画新様式における３観点での目標設定及び学習評価を充実させ、年間指導計画の単元整理やカリキュラム・マネジメントにつなげていく必要がある。 ・各部の系統性を踏まえたキャリア教育の指導計画の改善、充実と各教科等におけるキャリア教育の視点を踏まえた授業展開の工夫が必要である。
------	--	--

4 中期的目標

- 1 児童生徒一人一人の自立と社会参加に向け、一貫性のある教育活動の推進及び指導の充実に努める。
- 2 自己研修および実践研修を重ね、創意工夫に満ちた教育活動を展開し、特別支援教育の専門性の一層の向上を図る。
- 3 児童生徒が安心して学べる環境と学校の安全管理に努める。
- 4 関係機関との相互理解を深め、児童生徒の地域での主体的な活動を積極的に支援する。
- 5 特別支援教育センターとしての支援体制を構築し、地域支援・連携強化を推進する。

5 本年度の重点目標

A 服務規律の確保（信頼される教師、学校）

B 働き方の質の改革推進（ワーク・エンゲージメント〈活力・熱意・没頭〉）（業務の精選・効率化、段取り力の向上）

重 点 目 標	努 力 点 及 び 具 体 的 施 策
1 健康で安全・安心な学校 ～平時の危機管理を～	①児童生徒や保護者等との基本的信頼関係に基づく学級・学年経営 ②日頃からの防災教育の充実・緊急時体制の確立と安全な通学指導 ③いじめや不登校の早期発見・解決に向けた取組の推進（人権意識の高揚） ④養護教諭や栄養教諭、看護職員等と連携した健康安全教育の推進（感染症予防・医ケア・保健・食育等） ⑤体力向上にむけた個に応じた取組の工夫
2 授業力（構想と実践）・専門性の向上	⑥妥当性のある目標設定に基づく「個別最適な学び・協働的な学び」の推進 ⑦児童生徒の学びの質を深める授業改善と3観点による目標及び学習評価の充実 ⑧時代の変化に対応した新しい学びのスタイルの充実（ICT機器の有効な活用等） ⑨多様な認知特性や学び方にあった指導の工夫（UDLの視点） ⑩主体的に取り組む教員研修と専門家との連携を図った校内研究の充実
3 自立と社会参加にむけた教育の推進	⑪発達段階に応じた基本的生活習慣の確立（挨拶、報告、生活リズム、時間管理等） ⑫各部の系統性をふまえたキャリア教育の推進（キャリアパスポートの検討） ⑬自己理解を深め、主体的な進路選択を促す進路学習や進路情報の有効発信 ⑭学校内外におけるスポーツ・文化活動と主体的な児童生徒会活動の推進 ⑮根拠を明確にした自立活動の指導の充実（目標内容の妥当性、外部専門家との連携、流れ図の活用、各教科等との関連）
4 地域に開かれた学校づくり	⑯「特別支援教育支援センター」としての支援体制の強化とアセスメントに基づく指導助言の充実 ⑰ねらいを明確化した効果的な交流及び共同学習の工夫（教育課程への位置付け） ⑱地域や企業等、地域資源を活用した学習活動の積極的な取組（見学、実習等） ⑲CSの設置に向けた地域とともにある学校の在り方の検討 ⑳HPの充実とPTA、同窓会、各関係機関等と連携した活動の推進